

### 喫煙対策の基礎知識 その3

「喫煙習慣」という言葉は使わないように！

産業医科大学 名誉教授 大和 浩

国民健康・栄養調査や各種のアンケートで使用されている「喫煙習慣」という用語が以前から気になっていました (図)。

「運動」は「習慣」で結構ですが、「禁煙ガイドライン (2005)」で「喫煙の本質はニコチン依存症」と記載されているように、喫煙は習慣ではなく、ニコチン依存症という病気です。喫煙の有無を尋ねる問診票には英語の Smoking status の直訳「喫煙状況」が良いでしょう。

皆さんがアンケート等をつくる際には、「喫煙状況について伺います」として、毎日・ほぼ毎日・時々喫煙する人は「現喫煙者」としてまとめ、私のように以前吸っていたがやめた人は「元喫煙者」、もともと吸わない人は「非喫煙者」と4文字の表記にすると、表をつくるときに文字が縦に揃うので見やすくなります。

なお、WHO の定義では、生涯喫煙本数が 100 本以下の人が「非喫煙者」です。

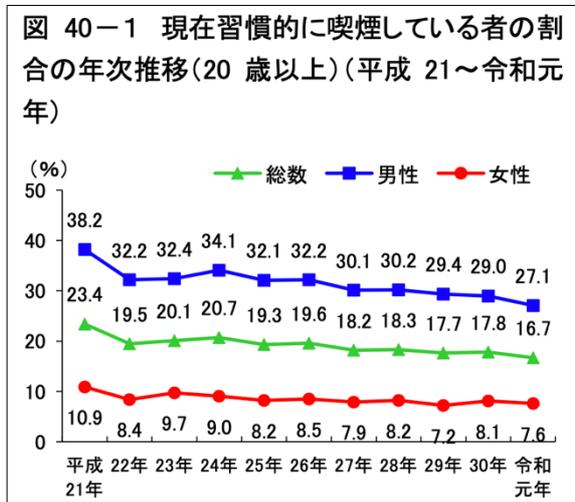


図. 令和元年国民健康・栄養調査より

衛生講話や産業医面談では「アルコール依存」「ギャンブル依存」「買い物依存」と比較しやすいように、「タバコ依存」を使用すると良いと思います。